

## 木頭地方の林業土木遺産群

### きとう 木頭地方の林業

那賀町は、那賀川の流域を囲む<sup>にうだに</sup>丹生谷地域にあった驚敷町・相生町・上那賀町・木沢村・木頭村が合併し、2005年に誕生した町である。町域の9割以上が森林であることや、温暖で雨の多い気候のため、昔から林業が盛んであった。なかでも上流部に位置する上那賀、木沢、木頭は「木頭地方」と呼ばれ、木材の一大産地としてその名を馳せている。

今回紹介するのは、那賀町木頭地方にのこる林業土木遺産の数々である。伐り倒された木はその場で長さを切りそろえられ、そのまま乾燥するまで山中に残され、時宜をみて地元あるいは下流の製材所まで運ばれる。運搬にあたっては、まず谷筋まで人力で運び出した後、支流や那賀川本流では水力によって運び出していた。こうした方法は、戦後1955年に長安口ダムが出来る直前の1953年まで続いていた。

紹介する林業土木遺産は、山中を人力で運ぶために作られた手彫りのトンネルと木馬道<sup>きんま</sup>、水の少ない支流<sup>いずはらだに</sup>で木材を流すための堰（出原谷の鉄砲堰）に加え、林業で山に人が入るために作られた吊り橋である。

### 出原谷の鉄砲堰

木材を運ぶ際、岩の多い上流では管流といって丸太をバラで流していた。那賀川では今の長安口ダムの下あたりまで管流で運び、そこで筏に組んで、筏師が3～5日かけて河口まで運んでいた。ただ、水量の少ない沢などでは筏流はおろか管流もできないため、一時的に水を堰き止め、堰を一気に切ることによって木材を流す方法がとられた。そこで作られたのが「鉄砲堰」である。兩岸から張り出すように固定のアテ堰をつくり、中央の吐き出し口に木材を積んで水を堰き止めていた。水漏れ防止には山からとってきた苔が使われたそうである。これらの多くはアテ堰の部分も木で組んでいたが、木頭地方では1940年頃から切石をコンクリートで固めた練り石積みの堅牢な堰がいくつつくられた。

那賀町役場木頭支所の裏手で那賀川に合流する支流・出原谷にもひとつ残っており、2009年に土木学会の選奨土木遺産に選定された（写真1）。工費の高い堰がつけられたという事実からも、木頭地方の林業の繁栄ぶりをうかがい知ることができる。

木頭林業の繁栄と那賀川の流送路としての整備、その一部としての出原谷の鉄砲堰について、詳細は土木学会誌2010年9月号の「見どころ土木遺産」を参照してほしい。



写真1 選奨土木遺産「木頭出原谷の鉄砲堰」

## 木材運搬用手彫りのトンネルと木馬道

木材を伐り倒したあと、沢まで運ぶには人力に頼るしかなかった。木材を山中で運ぶためには、木馬と呼ばれる木製のソリを使っていた。旧上那賀の平谷地区の八幡神社あたりから山に入り、30分ほど登ったところに、この木馬を曳くための道（木馬道）と思われる道が残されている。

木馬は、曳いて使う道具であるため、下り坂の道であることが重要である。また幅は五尺から七尺（約1.5～2.1m）が適当とされ、これは人のための道より広い。木馬に載せる木材は長いもので4mほどもあったため、カーブの部分では特に広い幅員が必要となる。

平谷の山中にある木馬道と見られる道は、こうした特徴をすべて備えている。幅員を広くとるためか、谷側に石積みが施されているところもある（写真2）。山中の道にしては手が込んでいると言えよう。この道のすぐ上部には、尾根沿いの細い道もあり、こちらのほうが集落と集落をつなぐ人のための道と考えられる。また、この道のつきあたりには手彫りのトンネルもある（写真3）。つねに「下り」であることが求められる木馬道であるからこそ、トンネルが作られたのではないだろうか。トンネルを抜けると那賀川を見下ろす斜面に出る。こうした立地状況からも、この道とトンネルが木材運搬用に作られたと考えられるのである。



写真2 木馬道と思われる道  
谷側には石を積み、幅員を確保している。



写真3 木馬道につづく手彫りのトンネル

## 吊り橋

那賀川やその支流には、数多くの吊り橋が架けられている。つくられた年代やつくった人も特定できない物も多いが、これらは山仕事で山に入るために架けられたと考えられている。というのも、今では人が通るとも思えない、山道さえもまともにならないような山奥にも架けられているからである。

これらの吊り橋の多くは深い谷にある。細くしかも茶色く錆びたワイヤーでつられていて、床版（歩く部分）はエキスパンドメタル（1枚の板に切り込みをいれ引き延ばしてつくった金網）で、足下から深く青い谷を見通すことができる。なんともスリル満点である。

近年、徳島大学と那賀町住民でつくる丹生谷応援団が調査し、那賀町の吊り橋50選という案内図をつくった。これには、先の手彫りのトンネルも載っているのもので、マップ片手に木頭地方の林業土木遺産巡りをするのも一興だろう。ただし、遭難と事故にはくれぐれも気をつけて欲しい。



写真4 細いワイヤーで吊られた吊り橋

### 参考文献：

- 1) 徳島県経済部林務課「徳島県木頭の林業」1935年
- 2) 四手井綱英他「木頭の林業発展と日野芥の林業経営」1969年、農林出版

吊り橋50選問い合わせ先：

那賀町役場企画情報課（地域再生塾担当） 0884-62-1184

執筆：

徳島大学大学院ソシオテクノサイエンス研究部

助教 真田純子